

【テーマ2】 国立大学法人宮城教育大学

「未来の教育を支える優れた教員の育成を目指す養成・研修の一体的推進」
 - 教員養成大学と教育委員会の協働による特色ある人材育成システムの構築 -

取組の概要

◆3年間のアンケート調査と聞き取り調査の分析・比較

- ・2017, 2018, 2019年度アンケート調査
- ・学校現場の教員の姿と研修についての学校長への聞き取り調査
- ・若手教員(～10年)への聞き取り調査

◆養成段階及び現職教員への取組(大学)

- ・教師力育成「探究の対話(p4c)ゼミナール Pすく～る」の実践
- ・教職大学院研修(市教委との連携事業)の実践

◆養成機関及び学校現場の取組

- ・OJTを支援する教育委員会(教育センター)の実践
- ・校内OJTの実践(校内留学)

◆調査対象(教員:仙台市内)

- ・初任者 581名
- ・教職5年経験者 359名
- ・教職10年経験者 362名

◆調査対象(学生:宮教大)

- ・4学年学生 858名

◆調査対象(校長:仙台市内)

- ・小中学校校長/教員 33校

取組のポイント・成果

◆取組のまとめ

①調査・聞き取り

- ・養成期に身に付けておくべき資質能力の洗い出し
⇒折れない初任者、伸びる初任者へ
- ・10年経験しても身に付きにくい資質能力への対応
- ・調査に表れた宮城教育大学の特色＝防災教育

②養成段階及び現職教員への取組(大学)

- ・Pすく～るゼミ参加学生による全国防災ジュニアリーダー育成オンライン研修ファシリテーター実践
- ・教職大学院防災合同研修(市教委との連携事業)への現職教員(防災主任)の参加

③養成機関・学校現場の取組

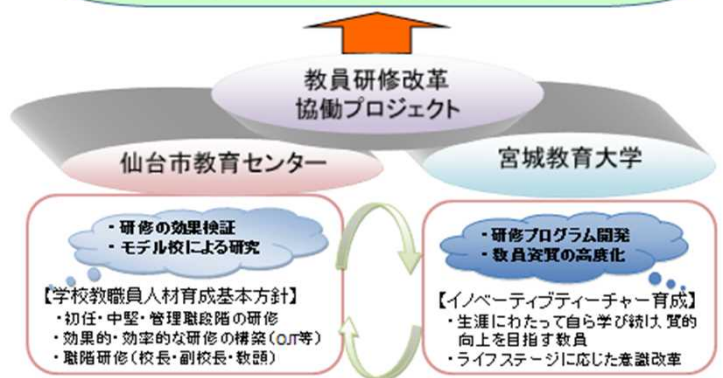
- ・訪問支援と学校現場でのOJT推進者育成研修
- ・学生が現職教員と共に参加できる研修の実施
- ・校内OJT「校内留学」の効果検証

◆成果

- ・3年間のアンケート調査によって、養成段階及び各教職経験段階での資質能力についての本人の現状認識と獲得の変化が検証できたことで、養成段階から現職教員の研修のあり方が明確になった。
- ・体験的な学びの要望に応えるシステムを構築してきたが、コロナ禍により必然となったオンライン研修の効果も提案できた。
- ・教員養成大学と教育行政が協働することで、学校現場のニーズに応じた人材育成や実現性の高い研修のあり方を提案、開発実践した。(教職大学院防災研修、センター研修の学生受講)
- ・学校現場で工夫され実践されている効果的なOJTを学校長聞き取りにより発掘、効果が検証できた。

教員養成・研修一体的改革推進事業

養成から研修まで一体化した教員育成システムの構築



今後の課題

◆新しい時代の学校教育に対応する資質能力の獲得に対応した研修

- ・指標と連動した教員研修の在り方、教員がモチベーションを上げる指標の活用
- ・教員養成大学と教育行政とが連携した管理職・リーダーへの研修の充実
- ・教員養成段階の学部・教職大学院授業への反映